

二〇一一年二月一七日

着膨れて曳き売りの魚買ひにけり
藁苞の奥に小さき寒牡丹
粕汁に野菜たつぷり庭の幸
酌み交すおでんに息を吹きかけて
車椅子巧みに操作苑小春
日課とす散歩の池塘笹子鳴く
二〇一一年二月一六日

百万ドル夜景を透かす枯木立
牡蛎船の行きかく行く中の島
遅れたつ葦の中より鴨一羽
枯れ菊を焚く香その尉まとひつつ
薄墨に染まりしごとく比叡眠る
クリスマス歌の洩れ来るケアハウス
螺旋灯忙し師走の理髪店
首塚の辞世の歌碑にしぐれけり
二〇一一年二月一五日

障子貼る息の合ひたる老夫婦
古箏笥黒光りせる冬座敷
絡む陽に冬芽の産毛煌めける
短日の影忍び寄る五重塔
上池に下池に鴨陣分かたつ
灯台をこぼれ翔ちたる冬かもめ
残り銭合はせ鯛焼き果大師
幾年を会ふことなきに賀状書く
酒好きも長寿の秘訣ちゃんちゃんこ
冬野菜レシピも付けて道の駅
年用意捨つることより始めけり
クリスマスリースパン生地とは見えず
沖遠く舳煌めく小春かな
二〇一一年二月一四日

年惜しむ僧の一筆全霊に
遊子われ汀の鴨を翔たせけり
おみなどち煤逃げせむとカラオケへ
散りもみち雨の水面に落ちつかず
しぐるるや岩に現れたる多尊仏
愛猫の天寿全ふ小夜時雨

よし女
ともえ
はく子
三刀
こすも
きづな

よし子
ともえ
雅流
菜々
百合
満天
うづぎ
とうち

菜々
よし子
三刀
とうち
雅流
よし女
なつき
はく子
よし女
満天
うづぎ
せいじ
花茗荷

満天
雅流
はく子
菜々
うづぎ
きづな

二〇一一年二月一三日

病み抜けし人をかこみて納め句座
走り去る車を追ひて落葉舞ふ
亡き父母の居ましし部屋の障子貼る
穏やかな日差し賜り煤払ふ
寺師走磴駆けのぼる宅配夫
冬薔薇開かぬままに紅凜と
着膨れて車中化粧すおみなかな
小流れの音絶え絶えし冬菜畑
彫像に黄落やまぬ御堂筋
百相の瘤もあらはに大枯木
火事を告ぐ遠音月蝕つづきを
大いなる聖樹灯点るケアハウス
ケーキ配るヘルパーらみなサンタ帽
二〇一一年二月一二日

見え初めし嬰に灯点す聖樹かな
前後左右揺り動かして大根引く
貸農園条理ただしき冬菜かな
朝市の釣銭輝の手より受く
過ぎし事肚に納めてちやんちゃんこ
落葉焚き無聊なぐさむ夕まぐれ
紅葉の朱に染まりたる一の谷
破れ芭蕉おひ被さりし翁句碑
漆黒の闇に一太刀冬の雷
葉牡丹の渦確かめて選びけり
小春日の松影縫ひて句碑めぐる
二〇一一年二月一日

宿坊の積もる落ち葉も風情とす
一の谷緋緘めきし冬紅葉
尖塔に似て大銀杏枯れにけり
師の一語励みとしたる事始
着膨れて月蝕仰ぐテラスかな
待降節レクイエム・ミニコンサート
大樽に満たす宮水寒造り
冬晴を映し野鳥の水飲み場
蝕進む月に冴えたるオリオン座

有香

ぼんこ
菜々
三刀
よし女
満天
ひかり
うづぎ
ひかり
菜々
とうち
満天
こすも

有香
よし女
うづぎ
よし子
宏流
雅流
わかん
花茗荷
満天
わかば

ともえ
せいじ
よし女
宏流
雅流
満天
よし女
ひかり
はく子

毎日句会みのる選・二〇一一年二月一九日